連載

フィールド・アイ

Field Eye

サンディエゴにて——②

阿部　正浩

Masahiro Abe

▨労使交渉とテールゲート・パーティー

アメリカへ行ったらスポーツ観戦は必須だ，と考える人は多いだろう。私もそうだ。サンディエゴには，野球では弱いながらもパドレスがあり，フットボールではプレーオフに進出できる可能性もあるチャージャーズがある。観戦しないわけにはいかない。

私がサンディエゴに到着した3月末には野球のシーズンは既に始まっていた。2004年と05年のシーズンには中日ドラゴンズから移籍した大塚晶則投手が在籍していたから，パドレスというチームがサンディエゴにあることだけは知っていた。でも，それ以上のことは知らない。にわかファンになって早速ダウンタウンにあるペトコパークへ観戦に行ってみた。

この球場ではヒットが出にくく，投手に有利だという。スポーツ専門ケーブルテレビのESPNの調べによると，この球場での打者の出塁率はMLBの球場でも下位にあり（2012年5月現在，30球場があるうち6番目に低い），とりわけホームランの出る確率は最も低いようだ。そのため，パドレスには良い投手が在籍すると言われている。

シーズン中は，何度かペトコパークに行った。2011年度のパドレスの勝率は43.8％ではあったが，私が観戦した試合はすべて勝つという幸運に恵まれ，とても楽しい思いをした。とはいえ，ナショナル・リーグ西地区5位という予想された通りの残念な結果に終わり，サンディエゴでの野球観戦は8月中にはあまり楽しめないものとなった。

とはいえ，日本のプロ野球にはない雰囲気を十分に味わえた。日本にいても，近所の西武ドームに野球を見に行くことはしばしばあったが，何かが違う。例えば，試合が始まる前から観客がスタジアムに集まりだし，思い思いのやり方で試合前の時間を楽しんでいる。スタジアムの席に座り男女二人がビール片手に話し合っていたり，グループで来た若者達がわいわいやっていたり，家族連れが通路で子どもとキャッチボールをしていたり。そんな中で最も興味を引きつけられたのは，スタジアムの駐車場でバーベキューを楽しんでいる家族やグループが何組もいたことだった。これがテールゲート・パーティーと呼ばれていることは後に知るところになるが，アメリカ人のバーベキュー好きはこんなところでも遺憾なく発揮されているようだ。

パドレスのプレーオフ進出の芽がなくなる頃には，サンディエガンたちの期待はチャージャーズに向かっていた。しかし，フットボールがアメリカであれほど人気のあるスポーツだとは，日本にいる時には思いもしなかった。野球やバスケットボール，アイスホッケー，それに最近ではサッカーにも，それぞれプロリーグがあり，フットボールもそうしたプロスポーツの一部だと思っていた。

ところが，だ。フットボールのシーズン前になると，大学の研究室前の廊下では今年のサンディエゴ・チャージャーズはどうだといった立ち話を教授や学生が繰り広げているし，シーズン中には，週末の4大TV（ABC，CBS，NBC，FOX）はフットボール一色になっている。ちょっと古いが，2008年にギャラップが行った調査によると，アメリカ人の好きなスポーツは，1位がフットボール，2位が野球，3位がバスケットボールだそうで，アメリカ人が最も好み，最も興奮するスポーツはフットボールなのである。

私をVisiting Scholarに受入れてくれた星岳雄さんは，フットボールの熱血大ファンでもあり，私のようなにわかファンにルールや試合観戦のツボを教えてくださった。そして渡りに船とはこのことで，星さんとはチャージャーズの試合を見に行く約束を早速取り付けたのだった。

ところが，好事魔多し。春頃から取りざたされていたNFLが予定通りに開幕しないのではとの噂が，現実味を増していたのだ。3月中旬に新規の労使協定締結が妥結されず，7月になっても使用者側がロックアウトを継続していた。そのため，選手達のスタジアムへの出入りが不可能で，シーズン前に十分なキャンプ

をすることが難しくなるだけでなく，2011年シーズンが開幕しない可能性も高まっていた。

事の経緯を簡単に紹介しよう。2011年3月初めには，2006年に締結されていた労使協定が2010年シーズンで終了し，新規の労使協定を締結しなければならない状態にあった。しかし，従来の協定が選手側に有利であったために，使用者側が巻き返しに出て，労使交渉は決裂。新協定の締結期限を過ぎてしまい，使用者側はロックアウトに出たというのが3月半ばであった。

労使協定でもめたのは，リーグ収入の分配比率だ。選手の取り分を従来の59.5％から41％に減らそうと目論むオーナー側に対し，選手達は50-50を望んでいた。また，試合数を1シーズン16試合から18試合へ増やそうとリーグは目論んでいたが，これにも選手達は反対していた。試合数が増えると身体への負担が大きく，選手寿命を短くするというのが選手達の主張だ。

労働条件で労使がもめることは多いが，今回のようにロックアウトまで行くことは希だろう。2004年に日本のプロ野球でもロックアウトの可能性が言及されたが，実際には行われることはなかった。

ここまでNFLのオーナーと選手会がもめた背景には，他のスポーツに比べて選手生命が短く，報酬が低いからである。2010年シーズンのNFL選手の平均選手生命は3.5年で，平均報酬は190万ドルだったが，MLBの平均選手生命は5.6年（2007年時点），平均報酬は344万ドル（2011年シーズン）だった。MLBに比べ，NFL選手達の期待生涯所得は明らかに低い。もしも新労使協定で選手達の取り分がさらに減ったり，試合数が増えて選手寿命が短くなったりすれば，彼らの期待生涯所得はますます低くなってしまう。

さらに選手達が問題視するのは，引退後に待ち構える不安定な生活だ。この30年間でみると，プロスポーツ選手の報酬はうなぎ登りに上昇しているが，引退後の彼らの生活は必ずしも安泰としたものでは無かったようだ。CNNによれば，元NFL選手の78％は引退後2年間以内に銀行破産を含む金銭上の危機的問題を抱えていたようだ。その背景として挙げられている要因は，職の無い状態が続いて収入源を失う元選手が増えることと，離婚によって慰謝料や養育費を負担しなければならない元選手が増えるためである。これらに加えて，2008年のリーマン・ショックは元選手の資産運用に大きな悪影響を与えたようで，破産する元選手が増加したと伝えられている。

こうした状況の下で新たなビジネスを模索する大学がある。George Washington大学のビジネススクールに設けられたSTAR E.M.B.A. programがそれだ。このプログラムはNFL選手を含むプロスポーツ選手だけを対象に設けられたMBAプログラムで，4人の現役選手を含む14人のNFL選手達が既に受講しているという。彼らが受講するプログラムは2013年に修了予定であり，プロスポーツ選手の引退後の生活にMBAがどのような役割を果たすのかはまだわかっていない。が，NFLリーグも選手達の学費の一部を負担していることからも，引退後の生活を改善すると期待しているのだろう。そして，STAR E.M.B.A. program修了後の選手達のキャリアを分析した研究が近い将来にきっと出るだろう。

7月も末になって，労使双方は新しい協定を結ぶことで合意し，ロックアウトが終了した。結局，選手達の取り分は47％で折り合いがついた。報酬以外の労働条件全般についてみても，オーナー側有利の協定が締結されることになったようだ。

さて，10月のある晴れた日曜日。我々はQualcommスタジアムの駐車場にいた。試合開始4時間前というのに多くの自動車が駐車している。みんな早くスタジアムに来て，テールゲート・パーティーをやっているのだ。我々も車のテールゲート付近にバーベキューセットを開いて，星さんが準備してくれた肉や魚に舌鼓を打つ。こんなにスポーツ観戦がおいしいだなんて，日本にいた時には想像できなかった。しかも，チャージャーズは試合に勝って絶好調だ。

あべ・まさひろ　獨協大学経済学部教授。最近の主な著作に「雇用ポートフォリオの規定要因」『日本労働研究雑誌』No.610（2011年）。労働経済学・経済政策専攻。